

<p>1 学校教育目標</p> <p>校訓 至誠一貫・進取向上・自治協同</p> <p>教育目標 「文武一徳」の人づくり 知性を磨き体を鍛え、徳の備わった、社会のリーダーたる人材の育成</p> <p>めざす学校像 『進学も部活動も元気な、生徒が主役の学校』</p> <p>育てたい生徒像 1 高い志と使命感をもった、社会に貢献できる生徒 2 心身を鍛え、何事にも積極的にチャレンジできるたくましい生徒 3 互いに協力しながら、主体的に行動できる生徒</p>

<p>2 現状分析</p> <p>本校は『文武一徳』のひとつづくりを教育目標に掲げ、全人的発達をめざした教育を伝統的に進めている。学校評価アンケートによると、この教育方針に基づく学校運営は生徒・保護者によく浸透しており、学校に対する高い信頼感が醸成されている。また、地域に対する文化活動・ボランティア活動を積極的に展開していることから、生徒・保護者だけでなく地域においても共感的な理解をいただいている。</p> <p>一方、進学実績については、国公立大学や有名私立大学の合格者の割合は減少傾向にあり、大学進学に対応できる学力の向上を一層図っていくことが喫緊の課題である。</p> <p>そのために、勉強時間を確保する中で生徒の学力を高め、授業改善を軸とした学力伸長のための具体的手立てを学校全体で取り組んでいく必要がある。さらに、生徒一人ひとりが抱える学習や学校生活に関する問題に対応した個別的教育相談や指導について、初期対応に重点を置きながら組織的に進めていく必要がある。</p>
--

<p>3 本年度重点を置いてめざす成果・特色、取り組むべき課題</p> <p>【2019年度の重点目標】 「夢や希望が溢れる豊浦」 ○壁を突破する2019年（誇りをもち、信頼され、期待される豊浦へ） ○「変化」をキャッチし、「チャンス」に変える 1 人間的な成長を第一に 2 地域に愛され、期待され、地域とともにある学校づくり 3 進学実績の向上 4 学校安全の充実</p> <p>【2019年度チャレンジ目標】 「猪突猛進」…「一つのことを全力で取り組む」という意味で、生徒一人ひとりが、自分の目標を持ち、それに向かって全力で突き進んでいく学校をめざす</p>
--

4 自己評価					5 学校関係者評価	
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	実践目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等 評価
教務	授業時間の確保	授業担当の出張等による課題等の授業時間を、時間変更により解消する。	4 課題・自習時間が、年間の持ち時間の3%以下の教員が100%であった。 3 課題・自習時間が、年間の持ち時間の3%以下の教員が80%以上であった 2 課題・自習時間が、年間の持ち時間の3%以下の教員が60%以上であった 1 課題・自習時間が、年間の持ち時間の3%以下の教員が60%未満であった。	3	非常勤講師を除く、42名の教員に今年度(4月～1月末)の持ち時間に対する課題・自習時間の調査を行った結果、3%以下の教員は38名、90%であった。3%を超えた4名の課題・自習時間の平均は3.8%であった。また、課題・自習時間が0の教員が16名であった。 年間を通じて、生徒の授業保障のため、出張等で事前に変更できる場合は極力変更により対応し、病気等による急な年休等の場合は、対応できる教員で授業を行うことで授業確保を行うことができ、目標達成状況としては比較的満足できる結果である。	○授業時間の確保は努力されている。 ○教師の教えるスキルは重要な部分。他の授業を見てどうフィードバックするかが重要。 ○授業アンケートは実施時期により回答内容が異なってくる。何ヶ月かごとに実施し、更新してみてもどうか。 ○高い目標とされているが、評価はAで良いと思う。 ○互見授業強化週間などを設定する手法があっても良い。 ○豊浦高校の実績は素晴らしい。
	授業力の向上	研究授業・互見授業を通して授業改善に努める。	4 研究授業・互見授業に1回以上参加した教員が100%であった。 3 研究授業・互見授業に1回以上参加した教員が90%以上であった。 2 研究授業・互見授業に1回以上参加した教員が80%以上であった。 1 研究授業・互見授業に1回以上参加した教員が80%未満であった。	3	非常勤講師を除く、42名の教員のうち、3学期からの代替教員と他校との兼務の教員の2名を除く40名、95%の教員が、研究授業・互見授業に参加することができた。 本校では、互見授業週間と5教科の研究授業を実施しており、教科の枠にとらわれず、他の教員の授業を通して各自の授業改善に努めてきた。次年度以降もこの取組は続けていきたいと考える。	
生徒	交通ルール・マナー順守の徹底	自転車点検を実施する。 交通安全教室を実施する。 登校指導を実施する。 全体集会における諸注意を実施する。	4: 十分指導ができ、自転車過失事故が5件以内、かつマナーの徹底ができた。 3: 計画通り指導ができ、自転車過失事故が10件以内、かつマナーがほぼ守られた。 2: 計画通り指導ができたが、自転車過失事故が10件を超え、かつマナーがあまり守られなかった。 1: あまり指導ができず、自転車過失事故が10件を超え、かつマナーがほとんど守られなかった。	4	1月末日現在、自転車事故は3件(長府地区での自動車との接触。ケガなし)。自転車運転マナーに関する苦情は2件(長府商店街と長安線でのマナー)。初期指導として新学期に学校周辺の自転車通学路の安全指導を3日間実施。合わせて自転車点検および新規自転車通学希望者に対するステッカー交付。9月末に交通安全街頭運動(9月末は風紀委員も参加)および交通安全教室(県教委による学校安全セーフティライフセミナー)を実施し、本校通学路をモデルにしたKYT(危険予測・回避学習)。2月中旬に風紀委員によるステッカー一斉点検。毎朝全教員(ローテーション)による松原交差点一帯の安全指導および毎学期末に生徒課教員による長府地区街頭安全指導。	○生徒指導は取組、成果とも申し分ない。生徒の状況をよく把握しており、安心できる。ボランティア等の地域貢献も素晴らしい。
	社会性とコミュニケーションスキルの育成	校外での挨拶、教師と生徒及び生徒同士の対話を通じ、コミュニケーションスキルを向上させる。 生徒会活動や課外活動を中心に、社会奉仕活動に積極的に取り組み、地域に愛される学校づくりを目指す。	4: 本校主催あるいは地域関係機関主催の社会奉仕活動への参加が20件以上だった。 3: 本校主催あるいは地域関係機関主催の社会奉仕活動への参加が10件以上だった。 2: 本校主催あるいは地域関係機関主催の社会奉仕活動への参加が5件以上だった。 1: 本校主催あるいは地域関係機関主催の社会奉仕活動への参加件数がほとんどなかった。	4	1月末日現在、学校行事や各部活動により30件以上実施している。団体主催の活動以外に、日常的に奉仕活動に取り組んでいる部活動もある。長府まちづくり協議会や警察等の関係機関と連携し、文化芸術・スポーツ・清掃・防犯等の諸活動に取り組んだ。今後も社会奉仕活動や地域交流活動に積極的に参加して社会性や協調性、公共心を学ばせ、「人のために自然に笑顔で汗がかけられる豊高生」を育成したい。	
	高校生活への適応と心の健康の保持 [教育相談室]	教育相談の立場から、個人の内面的問題や人間関係上の問題に対し、校内外の関係機関と連携して迅速にケース会議を設置する。これを基盤に、問題を抱える生徒とその家庭へ初動重視の組織的支援を行う。	4: 学年団及び校外の関係機関と連携し、問題を抱える全ての生徒とその家庭を組織的に支援することができた。 3: 学年団及び校外の関係機関と連携し、問題を抱える生徒とその家庭を組織的に支援することができた。 2: 教育相談室として対応に努めたが、問題を抱える生徒とその家庭への組織的支援が行われなかった。 1: HR担任が一人で問題を抱え込んで孤立し、問題を抱える生徒とその家庭への組織的支援が行われなかった。	3	「早期発見・早期対応」を全ての活動の基盤とし、年2回の保護者懇談、毎学期及び随時実施する生徒個人面談、年3回実施するいじめ・被害調査、教職員による毎朝の学年ミーティング、いじめ対策委員会、定例・緊急の生徒課会議、教育相談委員会、ケース会議、部顧問会議、校内巡視等により、情報共有と対応に当たった。同時に、状況に応じて速やかに外部専門機関や県教委と連携した。これにより生徒のさまざまな問題の解決・解消にあたった。引き続き生徒理解と生徒集団観察を深化させるとともに、対応中の問題には家庭及び外部機関と連携して解決・解消に当たる。また、教育相談に関わる教員研修を進める。	
進路指導	学習時間の確保と学習習慣の確立	学年毎に、家庭での学習時間を自己管理できるよう促し、学習習慣の確立につながる取組を実施する。	4: 家庭での学習習慣が身についたと自覚した生徒が80%以上であった。 3: 家庭での学習習慣が身についたと自覚した生徒が60%以上であった。 2: 家庭での学習習慣が身についたと自覚した生徒が40%以上であった。 1: 家庭での学習習慣が身についたと自覚した生徒が40%未満であった。	2	高校入学後の学習習慣に繋がる取組として、チャレンジタイムを1学年の初期指導で実施した。また、生徒各自が家庭学習の自己管理ができる事を目標に、全学年において学習手帳を導入した。年度末で学習習慣が身についたと自覚した生徒の割合(括弧内は10月末時点)は、全体では59.7%(54.7%)であった。1学年58.0%(42.7%)は上がってきたが、2学年45.3%(34.5%)は微増ながらも相変わらず低く、基礎学力を固める重要な学年において全校体制で学習習慣の確立が至上命題である。	○家庭学習は、小中学校時代からの習慣付けが大切。高校では、部活動の時間を削ってでも学習時間を作る取組をお願いしたい。 ○生徒と向き合っただけでしっかりケアをする。結果として保護者にも見える形になれば、評価も上がってくる。 ○学校の進学に関する取組をホームページ等で学校から発信していけば、評価に繋がる。 ○受験に当たっては、推薦よりも一般入試。長期的にデータを取っていくのもいいのではないかと。 ○今年度実施した、他県の先進校視察も良い取組である。
	進路情報の提供の充実	進路だよりの発行や保護者向け進路通信を定期的に発行し、進路に関する情報を生徒・保護者に提供し進学意識の啓発を促す。	4: 学校評価アンケートの「情報提供が進路決定に役立っている」項目で肯定的評価が80%以上であった。 3: 学校評価アンケートの「情報提供が進路決定に役立っている」項目で肯定的評価が60%以上であった。 2: 学校評価アンケートの「情報提供が進路決定に役立っている」項目で肯定的評価が40%以上であった。 1: 学校評価アンケートの「情報提供が進路決定に役立っている」項目で肯定的評価が40%未満であった。	3	生徒に対するアンケートでは、肯定的評価が87.2%であった。また、保護者に対するアンケートでは78.9%であった。1・2学年生徒・保護者に対して来年度より始まる新入試制度に向けての情報提供を学年と連携して行った。また、教職員や生徒に対する講演会を実施することができた。各学年に応じた進路講演会をタイミングよく計画できるようにしていきたい。進路通信は、発行まで至らず十分な情報発信とは程遠かった。この点については今後改善をしていきたい。	

総務	学校安全の徹底	各学期ごとに施設設備等の安全点検を実施する。	4: 施設設備安全点検後の危険箇所改善率が90%以上であった。 3: 施設設備安全点検後の危険箇所改善率が70%以上であった。 2: 施設設備安全点検後の危険箇所改善率が50%以上であった。 1: 施設設備安全点検後の危険箇所改善率が50%未満であった。	4	各学期末に、すべての教員が担当掃除区域ごとに安全点検を実施した。不良箇所については事務室の協力により補修ができ、安全な学校生活ができる環境を維持している。	○進路とタイアップした学校情報の発信をホームページで行うと良いのではない。 ○図書離れの対応は難しい。読書習慣を高校からというのは無理。	B	
	情報提供の充実	ホームページやマチコミメール、配付するプリント等を十分に活用して、積極的な学校情報の整理・発信を行う。	4: 学校評価アンケートの学校情報発信に関する項目(質問1)で肯定的評価が80%以上であった。 3: 学校評価アンケートの学校情報発信に関する項目(質問1)で肯定的評価が60%以上であった。 2: 学校評価アンケートの学校情報発信に関する項目(質問1)で肯定的評価が40%以上であった。 1: 学校評価アンケートの学校情報発信に関する項目(質問1)で肯定的評価が40%未満であった。	3	2学期末に学校アンケートを実施し、3学期初旬にデータを集計した後、ホームページに掲載しすべての保護者にアンケート結果を提示した。学校への提言等については、運営委員会で提示して、保護者側の学校への希望や改善要求等を示し、各課の今後の課題とした。また、ホームページについて、今年度は積極的に計4回(1月末現在)の更新を行ったが、保護者からの肯定的な評価が得られるように、今後さらに質の向上に努めたい。			
	図書室利用の促進	生徒・教職員のニーズに応じた蔵書を整え、特に生徒については、読書の習慣を定着させて本の貸出の増加を図る。	4: 今年度、本校図書館で本を借りた者が全校生徒の60%以上であった。 3: 今年度、本校図書館で本を借りた者が全校生徒の50%以上であった。 2: 今年度、本校図書館で本を借りた者が全校生徒の40%以上であった。 1: 今年度、本校図書館で本を借りた者が全校生徒の30%以上であった。	2	生徒の読書離れが進んでいるが、図書委員会などを通じて、蔵書の貸し出しを呼び掛けている。			
保健体育	体力の向上	スポーツテストの総合判定においてA判定が1年生15%以上2年生25%以上3年生35%以上を目指し授業の充実を図る。	4 3学年とも目標以上であった。 3 2学年において目標以上であった。 2 1学年において目標以上であった。 1 全学年とも目標に達していない。	4	本校は、運動部加入率が高く、その活動実績も著しい。体育的行事を一生懸命に取り組み、体育の授業においても基礎体力の定着を図ってきた。その結果、スポーツテストでは優秀な成績に繋がったと考えられる。	○体力の向上については、素晴らしい。 ○齲歯治療に関しては、スポーツでは歯が大事。部活動ごとの比較をしてみてもどうか。 ○治療が必要な生徒の割合を把握し、部活動と連携することが必要。	B	
	健康の保持増進	継続的に個別・集団の保健指導を行い虫歯の治療率を上げる。	4 治療した者が70%以上であった。 3 治療した者が50%以上であった。 2 治療した者が30%以上であった。 1 治療した者が30%未満であった。	1	齲歯の治療率の向上については、毎年個別の通知やほけんだよりを通じて受診勧告を行っている。受診率が低値となっているため、保護者面談や再度個別に指導していく必要があると考える。			
1年	主体的に進路を選択できる能力・態度の育成	総合的な探究の時間を通じて、興味関心があることや進路について主体的に調べるよう指導する。	4 大学調べ・職業調べ・探究の調べ・オープンキャンパス」延べ4回以上 3 大学調べ・職業調べ・探究の調べ・オープンキャンパス」延べ3回以上 2 大学調べ・職業調べ・探究の調べ・オープンキャンパス」延べ2回以上 1 大学調べ・職業調べ・探究の調べ・オープンキャンパス」延べ1回以上	2	生徒アンケートを実施(2月4日) 150名の生徒が回答。 大学調べ・職業調べ・探究の調べ・オープンキャンパスが「総合的な探究の時間」を除いてどのぐらい出来ているかを確認したところ 「延べ4回以上」 14名(9%) 「延べ3回」 12名(8%) 「延べ2回」 38名(25%) 「延べ1回」 54名(36%)の結果を得た。 以上により、10月と比べ2月の段階では少しずつではあるが情報収集を自らできるようになってきた。複数回行ったものが、42%となるため、評価基準に基づき、達成度は「2」と判断した。探究学習も考えが深まるにつれ、調べることも多くなった。また、センター試験等が実施され、大学への関心も深まってきた結果と思われる。	○自分は何をやりたいかを考えさせる時間づくりをお願いしたい。 ○部活動顧問からオープンキャンパスの参加を積極的に促してほしい。	B	
2年	自分の将来を見据えた進路目標の設定	総合学習での探究活動や個人面談等諸活動を通して、生徒一人一人が自らの将来に向き合い、進路目標を設定していけるよう導く	4: 年度末アンケートにて、「自分の将来を見据えた進路目標を設定することができた」と回答した生徒が75%以上であった。 3: 年度末アンケートにて、「自分の将来を見据えた進路目標を設定することができた」と回答した生徒が50%以上75%未満であった。 2: 年度末アンケートにて、「自分の将来を見据えた進路目標を設定することができた」と回答した生徒が25%以上50%未満であった。 1: 年度末アンケートにて、「自分の将来を見据えた進路目標を設定することができた」と回答した生徒が25%未満であった。	3	1月23日に実施した生徒アンケートでは、自分の将来を見据えた進路目標の設定について、「設定することができた」とあるいは「ある程度設定することができた」と回答した生徒が73%であり、評価基準に則り3と判断した。 総合学習の探究活動では、自分の興味ある学問分野から見いだした課題について、年間を通して考察し、実地調査等行いながら、解決策を考え発表まで行った。この活動を通じて、生徒は自らの興味ある分野を意識し、この活動が将来に向き合う一助となったと考えている。 また、現2年生は大学入試改革に直面する学年であり、自分の進路に早めに関心を持たざるを得ない状況である。これまで多くの変更や情報等に生徒は戸惑いを感じたに違いないが、適宜情報提供を行い、早めに志望校を検討させる指導を行ってきた。各担任を中心に指導を継続しており、その指導の成果も徐々に出てきていると考えられる。			
3年	第一志望の進路実現に向けた自己教育力、自己成長力、目標達成力の育成	2年次に行った様々な具体的活動に加え、次の方策を行う。 ○進路指導課との連携を密にし、様々な情報共有を図る。 ○進路に関する日程、内容等の情報を十分に提供する機会を設ける。 ○面談による個別指導を充実させる。 ○模試に対して、自己採点(生徒)と分析(教員)を行う。 ○進路資料室の活用を推進する。 ○自習室の利用や勉強会を推進する。	4: 年度末アンケートにて、「第一志望の進路に合格した」と回答した生徒が80%以上であった。 3: 年度末アンケートにて、「第一志望の進路に合格した」と回答した生徒が55%以上80%未満であった。 2: 年度末アンケートにて、「第一志望の進路に合格した」と回答した生徒が30%以上55%未満であった。 1: 年度末アンケートにて、「第一志望の進路に合格した」と回答した生徒が30%未満であった。	3	家庭学習に入る前日に次のようなアンケートを取り、集計を行った。 (1) 進路先が決定している生徒について ア 進路先が第一志望である。 イ 進路先が第一志望でない。 (2) 進路先が決定していない生徒について ア 受験先が第一志望である。 イ 受験先が第一志望でない。 すべての受験結果が判明していないことと、アンケート実施当日に受験や病気の理由でデータのない生徒が存在することにより、結果を報告するには確実なデータとは言えないが、集計結果は次のようになった。 192人中、データ不明が31人、(1)のアが91人、(1)のイが3人、(2)のアが55人、(2)のイが12人である。不明の31人を除く161人中アの割合は、(1)と(2)の合計では90.7%、(1)のみでは56.5%であった。192人中(3年全員)アの割合は、(1)と(2)の合計では76.0%、(1)のみでは47.4%であった。また、進路決定者のみ(94人)のうちアの割合は96.8%、進路決定者・データ不明(125人)のうちアの割合は72.8%であった。以上を総合的に判断し、評価を3としたい。			○学校全体で進路体制に取り組む必要がある。 ○12月に降に欠席が多かったのは残念である。 ○3月まで引き続きの支援をお願いしたい。
業務改善	業務時間の短縮	会議時間の短縮、ノー残業デーの設定、最終退校時間の相互啓発、部活動の週一休養日実施、年次有給休暇の積極的取得等を推進するなかでタイムマネジメント力を上げ、業務改善を図る。	4: 業務時間の短縮率が平成28年度比30%以上であった。 3: 業務時間の短縮率が平成28年度比20%以上であった。 2: 業務時間の短縮率が平成28年度比10%以上であった。 1: 業務時間の短縮率が平成28年度比10%未満であった。	2	会議資料を前日に配付、一読の上、会議に臨むことで時間短縮を徹底している。部活動運営方針を示し、適切な休養日の設定を共通理解している。最終退校時間の意識は高まってきている。上半期終了後、各自の時間外業務の昨年度比較を配付し、より一層の業務時間短縮を図っている。各月とも昨年度に比べ時間外業務時間は減少しており、1月末現在で平成28年度比マイナス15.2%である。	○時間外業務時間は昨年度よりかなり減っている。しかしながら、県の目標には到達していない。 ○中学校も同様。県の指針を示し徹底するしかない。時計が1周するまでには退校しようとして声掛けをしている。 ○時間外業務時間の状況は正直に出している結果だが、職員健康管理の面から、今後の対応が必要。		
	教職員の健康管理	健康診断結果に基づいた健康管理を行い、面談等の機会を使いながら意識改革を行い受診率の向上を図る。	4: 再検査者の受診率が100%であった。 3: 再検査者の受診率が80%以上であった。 2: 再検査者の受診率が60%以上であった。 1: 再検査者の受診率が60%未満であった。	3	再検査対象者は全教職員の51.0%で、前年度より増加している。しかし、1月末現在の再検査の受診率は84.0%で、昨年度同期62.8%と比較すると大幅に上回っている。受診率100%に向けて、働き方改革及び健康管理の啓発に努める必要がある。			

5 学校評価総括（取組の成果と課題）	
教務	生徒が学校生活を送る上で、大切な「授業」をいかに充実していくことができるかを目標に「授業時間の確保」「授業内容の改善」を今年度の重点目標に掲げた。「授業時間の確保」については、出張・代休等による自習や課題を極力少なくするよう、時間変更により対応し、急な教員の病気によるものは、教科のみならず学年にも協力をお願いし、可能な限り授業で対応できるよう取り組んだ。「授業内容の改善」について、研究授業は初任者研修や各教科による研究授業を実施し、授業担当者はもちろん、参加した教員の意識の向上がみられた。また、互見授業を行うことにより、適度な緊張感と、新たな発見等が教員の大きな刺激になったと思われる。
生徒指導	生徒課内はもとより他分掌、校外生徒指導機関及び家庭と連携した組織的・計画的・予防的な指導の積み重ねにより、全てではないが各種問題の解決・解消を図ることができた。交通安全については、「自他の生命・安全の尊重」を軸に、同じ指導目標を数年間地道に継続実施したことにより、自転車事故の減少や交通マナー（自転車・徒歩）の改善が見られた。しかし、一部に規範意識が不足している生徒がおり、外部からの苦情も数件受けている。危険予測学習と生徒主体の安全意識の啓発活動を継続する。コミュニケーションスキルの育成については、挨拶の励行が浸透しており外部からの評価も高い。部活動・学校行事の中にボランティア活動への参加を組み込み、地域と連携した生徒主体の自主的・計画的な活動を行った。HR担任や教育相談室による面談（保護者面談も含む）を計画的に実施するとともに、生徒と複数の教員がコミュニケーションをとれる機会を増やし、生徒の客観的・多面的理解に努めた。これら日常的な生徒観察に加え、毎学期のいじめ・被害等調査により、問題発生時には早期対応・早期解決することができた。生徒は全体的に能動的で落ち着いた学校生活を送った。しかし、人間関係のトラブルは常に起こり得るものであり、以上の取組を基盤にしながら現行の予防的指導体制を発展させたい。教育相談活動は、教育相談室長を中心に各学年担当の教育相談係がHR担任や部活動顧問等と連携して推進した。中学校と連携した新入生の情報交換や学校カウンセラーの活用、場合によっては医療機関とも連携した取組等と合わせ、様々な問題が概ね解決し、HR担任のサポート役として教育相談室が有効に機能した。生徒の多様化により、基本的生活習慣の確立や学校不適応、通級指導に対応した指導力の向上が必要である。今後教員の研修や家庭・専門機関・地域関係諸機関との連携を深め、教育相談体制の充実を進めたい。
進路指導	1年次の初期指導で行われるチャレンジタイムや大学訪問で、入学当初の高校生活の学習習慣や進路に関する意識付けはできたと思う。大学説明会をはじめ、新入試制度に伴う進路講演を企画し、生徒自身の進学意識向上を図った。家庭学習については特に、2学年でやってきた指導はある程度成果を上げた結論付けられる。ただ、今回「設定することができた」と回答した生徒は18%であった。多くの生徒がまだ完全に確立したという状況まではいっていないので、今後もよりいっそうきめ細かい指導が求められる。また、学年目標を「自分の将来を見すえた進路目標の設定」とした背景には、学習への動機付けの面もある。自らの進むべき方向を早期に明確にし、その実現に向けて学習に動かしむことが求める理想像である。進路目標の設定を学習意欲のさらなる向上に結び付けることができるよう、今後も継続して指導していくことが肝要である。
総務	学校の施設設備については、各学期ごとに考査期間中を利用して、すべての教員が担当の掃除区域を中心に安全点検を行い、事務室の協力の下で、不良個所の点検を常に行ってきた。今年度も防火や防災に備えた避難訓練を行い、消防署の協力を得ながら、消火器の使い方等の説明もあった。また、ホームページについては、より新しい情報を的確に伝えられるように、昨年よりも質の高い内容を提供できるようになった。図書においては、今年度も生徒・教職員の希望図書を積極的に購入し、常に新しい文庫を提供できるように努めた。
保健体育	体育の授業や部活動の活動を通して、体力・運動能力の向上は図られている。生徒自ら安全に取り組む姿勢をもっと身に付けさせたい。今年度は、帽子を活用したり、熱中症対策を行ったりした。う歯の治療については、毎学期ごとに治療勧告をしたものの、治療率は上がらなかった。
1年	1年間を通して、地域探究・SDGsに興味関心を深めてきており、知識の増加に比例して、課題も見つけられるようになり、グループ学習の内容が深まってきている。学年全体で総合的な探究の時間に取り組み、中間発表で担当教員からアドバイスを受け、さらに考え方が深化してきたように思われる。また、来年から実施される大学入学共通テストや各大学の入試改革への関心も持ち始めている。このように、自分の興味関心が大学選びに大きく影響を与え、さらに自ら調べる姿勢を身に付けた生徒も出てきている。推薦入試等で面接を伴う場合、自分の興味関心をしっかりプレゼンテーションできるように思われる。また、面接等がない場合も、自分が携わりたい学部への意識付けにはなっていないかと思う。今後は自ら情報収集していく姿勢を継続させていくことが課題である。しかし、調べ学習を人任せにしていたり、自らの進路と直結せず、興味関心を持っていない生徒も多い。他の生徒の考え方に刺激を受け、自ら計画、実行していくことで、生徒の学習活動やその他の生活全般に好影響を与えるよう持っていきたい。
2年	中間調査では「設定することができた」あるいは「ある程度設定することができた」と回答した生徒が55%であったが、最終調査では73%となり、生徒の成長が見て取れる結果となった。大学入試改革の影響もあり得るが、2学年で行ってきた指導はある程度成果を上げた結論付けられる。ただ、今回「設定することができた」と回答した生徒は18%であった。多くの生徒がまだ完全に確立したという状況まではいっていないので、今後もよりいっそうきめ細かい指導が求められる。また、学年目標を「自分の将来を見すえた進路目標の設定」とした背景には、学習への動機付けの面もある。自らの進むべき方向を早期に明確にし、その実現に向けて学習に動かしむことが求める理想像である。進路目標の設定を学習意欲のさらなる向上に結び付けることができるよう、今後も継続して指導していくことが肝要である。
3年	具体的方策に、可能な限り取り組んだことから、進路決定者、受験予定者いずれについてもほぼ第1志望の進路であった。特に、進路決定者に限定すると、第1志望合格者が100%に近い結果となった。また、受験予定者に限定すると第1志望受験者が82%であり、結果が未定だが、取組の成果は出ていると思われる。特に、多種多様な進路選択が挙がる中で、各クラスでの個別指導、進路指導課の指導、進路に関する資料提供等により、受験生に対応した進路先の指導を行うことができた。引き続き、3月末まで適切な指導を実施したい。来年度以降の3年生について、国公立の第1志望受験者（合格者）を増やしていきたい。国公立大学志望者減少は、私立指定校の受験、私立大学志向、早期進路先の決定志向等、多種多様な進路選択によることも考えられるが、学力低下が最大の原因である。学力を向上させ、その上での適正な進路指導をすることが最大の課題である。
業務改善	昨年度に続き、ノー残業デーの設定やICカードの導入により、時間管理の意識付けはできた。本校の教育改革と合わせ、教育の質を落とさない業務改善を継続する。教職員のストレス軽減のためにも、業務の効率化、負担の平準化をはかる必要がある。上半期終了後、昨年度比の個票を各教員に配付したことは意識改善に有効であった。
6 次年度への改善策	
教務	重点目標はともに数値目標を90%を超えた良い結果であった。今後も「授業時間の確保」「授業内容の改善」につながる取組をしていきたい。特に「授業内容の改善」については、校内だけでなく、夏期休業中の教員研修や他校での研究授業への参加を積極的に働きかけ、教員にとっても生徒にとっても質のよい授業ができる取組を行ってきたい。また、授業アンケートの結果や評価も参考に「授業内容の改善」に取り組んでいきたいと考える。
生徒指導	「安全」については、自転車に関する事故・苦情等の交通関係だけでなく、不審者事案や災害関係にも対応するため、安全の三領域（生活・交通・災害）に関する対策を具体化する。防犯訓練、交通安全教室、災害避難訓練、AED講習等を、警察、消防、その他専門機関等の指導を受けながら、生徒会やHR活動において生徒が主体的に行動できるよう啓発指導を行う。これらを通じて生徒の生活実態に即した危機管理能力（危機回避×危機対応）を具体的・実践的な内容にスキルアップさせる。「豊かな心の育成」・「教育相談」については、引き続き、校内での情報共有と共通理解、家庭、中学校、専門機関、地域社会との連携を重視する。特に、教員の研修を深め、問題の未然防止、早期発見・解決を図る。また、若い世代の教員が増えていることから、生徒指導スキルの継承や、問題を一人で抱え込まずに本校生徒指導の長所である組織的対応力の充実を図る。
進路指導	生徒の学習習慣の定着が1、2年生において十分できていなかった。生徒自身の進路意識の向上と学習習慣の定着は大きく関連しているため、「総合的な探究の時間」を充実させることと進路講演会などを積極的に取り入れることによって、高い目標を持った生徒の育成に努めていきたい。進路指導課のみではなく、学年・教科・部活動等学校全体との連携・協体制が必要と考える。
総務	学校の施設設備の安全点検は、危険個所の情報を素早くキャッチしながら、早急に対応できる体制の構築に努めたい。防火・防災訓練については、来年度も計画的に行いながら、生徒や教職員の意識の高揚に努めたい。ホームページについては、豊浦高校に興味を持つ中学生・保護者、本校の在校生・保護者、多くの卒業生・地域の方々々に魅力ある豊浦高校を発信できるよう、内容を改善しながら、さらなる質の向上に努めたい。また、PTA総会は、本年度も多くの保護者の参加を得ながら開催できたが、来年度も今年度の反省点を踏まえながら、開かれた豊浦高校を保護者に理解してもらうためのものとした。
保健体育	運動意欲が高い生徒が多いだけに、けがなどの発生も少なくない。本年度は、体育行事や授業などで様々な対応をしたことと、生徒の意識向上により、熱中症などの健康被害が激減した。この経験を継続して行い、様々な場面を想定した安全管理・健康指導を心がけたい。う歯の治療の指導については、全体指導や担任と連携を取り、より一層声かけをしていきたい。
1年	生徒の情報収集力を高めるのに即効性のある方法はないと考える。生徒が大学改革の情報に常にアンテナを張り、オープンキャンパスなどに参加し、大学の情報収集ができるよう地道に手をかけて支援していくことが肝要である。また、探究活動から大学選びにつなげていくことが重要である。探究活動で課題が何かを考え、伝える力を養うことが面接等につながってくると考えられる。さらにeポートフォリオを活用し、活動ごとに頻りに記録をとどめていくよう指導していきたい。
2年	自分の進路目標の設定は、高校生活諸活動の意欲向上につながる大切なテーマである。人生経験の少ない高校生にとっては難しいことかもしれないが、進路目標を早めに設定できれば、学習やその他諸活動にも意欲的に取り組むことができ、進路実現にもつながっていく。ただ、進路目標の設定は単一の活動だけを通してなし得るものではない。3年間を通じた進路ストーリーを考え、様々な角度から系統立てた活動を考えていく必要がある。また、1、2学期初めの個人面談時には項目の一つとして簡単な進路目標調査を行っているが、一番生徒が進路に関心を持つ3学期にも、可能であれば個人面談週間を設け、より詳細により深くていくとよいと考える。さらに次年度3学年では、早い段階で明確に進路目標を設定させていきたいと考えている。
3年	学力向上に向けては、その対策・検討に学校全体で現在取り組んでいるところである。本校の場合、時間の有効活用、部活動と連携のとれた計画的な学習指導システム、意欲向上のための指導、生徒能力の分析等の点から、改善策に向けての課題は多いが、根気よく取り組んでいきたい。また、来年度以降の大学入試について、問題や募集方法、選抜方法などの変更に注意したい。最新の入試情報を取り込み、早期に対策を立てると良い。
業務改善	時間外業務の短縮に向け、より一層教職員の意識改革を必要とする。部活動における週1日の休養日は徹底できている。教職員の負担軽減は全国的な問題であるとの認識のもと、業務の精選、年休の積極的な取得奨励、業務改善の意識向上等、教職員が生き生きと生徒に向き合えるような取組を行っていきたい。